



流量豊富な鮫川に 河水統制の調査

縣内務省と東北振興が 三者聯合で實地踏査

河川の災害防止と河水を有利に使用せんとする一石二鳥の企てから河水統制を畫してゐる内務省に於て此の程石城郡鮫川の調査に當り

土木局の高橋技師 同試験所の高田技師 東北振興の萩原理事外三名 本縣の河井土木課長 黒岩技師等々三者聯合を以て三日間に亘る視察調査を行はれ上遠野村と山田村間の地質調査に河川の中にボーリングを試みられたる等この實地踏査が極めて重要なものと認められてゐることを地方部民に窺考されてゐるが流量の豊富なる同河川には堰堤によつて相當有望視され河床の地質調査の如きも其れにかゝるものと想像され發電所が工業用水が何れにしても不要の所へ餘分な水を流さず有効な河水は一滴でも無駄にせまいとする同一行の調査に異常な關心を拂はれてゐる

新豫算附議決定 石城産馬總代會

前年度より二千九百圓余増

石城産馬畜産組合では今十二日午前十時から平市開会事務所に於て定期總會を開かれたが之れに先き立つ評議員會は昨十一日總代會の提出案件を審議し諸件は左記の如く

十二年度の追加豫算は二百三十六圓で同年度總額七千七百六圓次いで十三年度豫算は總額九千八百七十七圓で前年度の當初豫算に比し二千九百三十七圓を増加した原因は馬匹價格の高値に伴ふ歩金収入の増加に準ずる出費の自然膨脹から他に自給しい事業はない尙ほ一般會計歳入歩金収入を主たる財源に移す十三年度の種馬資金收支豫算は五千五百四十六圓でこれまた當然の膨張から前年度に比し二千四百

鐵道郵便線路改 正で局の改正時

平野郵便局では鐵道郵便線路發着時刻一部改正の爲め郵便物の速達を計るべく昨十一日かかる之れに伴ふ一部の改正を左記の如くされた

▲局出發時刻一號便從來午前六時を同八時半、二號便

日刊	日刊
日刊	日刊
日刊	日刊
日刊	日刊
日刊	日刊
日刊	日刊
日刊	日刊
日刊	日刊
日刊	日刊
日刊	日刊

北満戦死者の 三坂村葬

來る十六日

石城郡の三坂村の三坂村出身の北満戦死者の三坂村葬は本年一月二十七日北滿通河附近に於ける匪賊討伐に飯島部隊下で奮戦中名譽の戦死を遂げたが同村では來る十六日午前十一時三坂小學校に於て村葬を執行する

常識講座

科學的社會主義とは社會主義思想を科學的基礎の上に立て現實的社會なるものは神の意や理性で説明されるものではない經濟的條件に基づいて變化するものであると主張するもの

平商業校の卒業式

今十二日卒業生七十四名

平商業學校の第十八回卒業式は今十二日午前九時同校講堂に於て舉行された今回の卒業生は七十四名で内優等生 會田長太郎(平) 石井明(田) 村野夏井(岩) 岩崎久治郎(平) 佐藤藤蔵(夏) 長瀬泰輔(平)の五名

其の他の氏名左記の如くであるが他に校に見られない成績は全部就職されてゐる事である

▲級長 齋藤會田長太郎 長瀬泰輔 松島精

▲五十年精進 織内一郎 片寄高藏 高田稔 内藤寛

▲渡邊清吉 渡邊清 伊藤正勝 今宮盛造 藤野小澤幸三 大塚盛夫 大平昌夫 大平喜市 小島繁雄 小野重一 金成久吉 河越忠夫 木田健夫 北島賢博 木船敏沖 九頭見武 國井武 坂本昇平 澤三郎 佐藤眞一郎 佐藤信一 佐藤文男 佐久間長七 佐藤和男 佐藤博信 白土弘志 賀崎 藤幸造 鈴木吉一 鈴木福藏 須藤久路 菅原文伯 鈴木省吾 鈴木茂雄 添田將一 高橋雄次郎 高木敬 富田郁郎 中村忠勇 難波一郎 西山正之 新妻

銀紙獻金

平野放屋組合が放放總動員で宛めてゐるタバコの銀紙は今更だ一貫二百圓に達したので今十一日恤兵金の一部に納納方を市役所に寄託した

赤井村の村會

石城郡赤井村では來る十四日午前十時から村會を招集し前村長猪狩忠人氏に對する慰勞金贈呈、助役の推薦承認及び十年度並びに十一年度決算の誤謬報告をなすと

愛谷水利總會

長と事務理事

石城郡愛谷江筋組合では來る十五日午前九時か、夏井村役場に同水利委員會を併すと

長と事務理事 石城郡愛谷江筋組合では組合長大和和隆介氏の辭任により事務理事石川虎之助氏を後任に決し事務理事は來る九日

根本家の襲名

平市見町米穀商根本商店

平市見町米穀商根本商店では市各議員でつた業主品藏氏の逝去後、男弘君の名で營業してゐるが今回弘君の名を襲し家運に盡されし由

傷病將兵慰問

平市會議

平市會議三十名は今早の慰問を兼ねて、

赤井村の村會

石城郡赤井村では來る十四日午前十時から村會を招集し前村長猪狩忠人氏に對する慰勞金贈呈、助役の推薦承認及び十年度並びに十一年度決算の誤謬報告をなすと

土工の舊惡

平野に檢舉されて

秋田縣仙北郡飯詰村の飯詰生れ當時住所不定土工泉谷周次郎(三)は昨年十月中那那郡吾妻村の千貫地内に於て電工事飯場甲斐方からドテラ二枚を窃取し石城郡内に漂浪せる去る十日平野に檢舉取調へる結果去る十年七月中新湯縣

判妻君代儀豫て病氣中ノ處本月七日午後七時死亡致候ニ付此段御通知ニ代ヘ謹告仕候

追而葬儀ハ十三日午後一時ヨリ二時マテ福島縣小名濱町浄光院ニ於テ佛式ニヨリ別式併営シ申候

昭和三十二年三月九日 福島縣小名濱町

夫 小野清八
親戚 小野晋平
父 小野務平
志賀要平
總代

戦地 滲々と感じられる

上海の手前に「ウーソン」鎮と云ふ所があります。その鎮の奥にやうに穴だらけです。如何に激戦であつたかと思像するに餘りありません。上海の南北と云ふところも建物と云ふ建物は満足なものは一つもありません。南京は

戦地 滲々と感じられる

上海の手前に「ウーソン」鎮と云ふ所があります。その鎮の奥にやうに穴だらけです。如何に激戦であつたかと思像するに餘りありません。上海の南北と云ふところも建物と云ふ建物は満足なものは一つもありません。南京は

少年の帝都方面 就職者五十六名

平野職業紹介所の幹旋で帝都方面の就職を決したものは五十六名である之れ等の少年は主として鐵工機械方面の由

少年の帝都方面 就職者五十六名

平野職業紹介所の幹旋で帝都方面の就職を決したものは五十六名である之れ等の少年は主として鐵工機械方面の由

赤井村の村會

石城郡赤井村では來る十四日午前十時から村會を招集し前村長猪狩忠人氏に對する慰勞金贈呈、助役の推薦承認及び十年度並びに十一年度決算の誤謬報告をなすと

戦地 滲々と感じられる

上海の手前に「ウーソン」鎮と云ふ所があります。その鎮の奥にやうに穴だらけです。如何に激戦であつたかと思像するに餘りありません。上海の南北と云ふところも建物と云ふ建物は満足なものは一つもありません。南京は

産業の発展

人造纖維(下)

事變に刺戟され
柄と色の堅實化

絹綿を猛襲する
ス・フで考へられることは
純毛洋服地への應用であつて
絹のセルシン(膠質)を

開着させて毛と混織すると
この新しい方法では値段も
別に高くはならず必ず今後の
流行が豫想されてゐるのであ
るが、

ス・フの地方産業に及ぼす
影響としては第一に各山林
地帯のバルツ工場勃興と
並びに岩手縣外東北各縣に
於けるホームズパンなどへ
も相當の影響を興へるとこ
ろとなつて種々な改良をも
見られて來るであらう、先
づ本年度の織物界はこのス
・フをめぐつて國産品の一
大活況を呈することになる
であらうが尙ほス・フの使
用品は肌へたつき洗濯が
きかないのであるが染料の
吸収のよい點であつて見た
ところの良いと云ふ點の長
所があり、今後の改良の如
何によつては非常な流行を
見ることであらう、また事
業が織物界に與へたる影響
としては柄や色氣が非常に
堅實味を帯びて來たことな
どが目立つたものと上げら
れて居り現に角ス・フが商
工省の統制計畫に乗るとこ
ろの飛躍的發展をみるもの
は各種の織物界に大なる變換
を來たさしむるであらうこ
とは云ふまでもない。

(完)

國民精神總動員

日本國民必見の誌……

内閣情報部發行

寫真週報

1部10セ

お取次致して居ります

平二 西村屋藥局 電三

○一般印刷物も
御引受致します
新しいわき新聞社
印刷部

幸福の父
健康の母たらんには
召し給へ!
機那守フラン酒は
子寶を得て見し。

効能
血行促進
消化器
婦人科
小児科
老人科
病後補
一服に上し

平市五丁目角 山野邊藥局

待チニ待ツタ學校へ……
嬉シイ新入學
可愛ラシイオ子様方へ
學生靴ト學生帽子ヲ

ツルヤ

電話一四〇

專門
皮膚科
泌尿器科
性病科

診療時間
午前八時より
午後九時まで

醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九二番

院醫尻江

和洋銅鐵、金物問屋

店南屋釜

九九・九電

病室増築、手術室完備

産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二

平市新川町 電話二六九番

債券 公債 兩替 金融

多田井質店
平市大工町 電話五九二番

一般印刷物も御引受致します
新しいわき新聞社

平市橋迫小路
整形科醫院
電話五八八番

銀家ベ 牛鳥
申カツ汁
珍味御試食願上ます

チンヤ式食堂
静かなお座敷

平市三田小路・電一六七

便利で
經濟な 日下家政婦會の
派出婦を御利用下さいませ

何をお任せしてもご安心です
平市田町十八(西村屋藥局)

日下家政婦會
會長 日下すい子
電話七二三番

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 醫學博士 大岩俊雄

藥局 藥師 大岩俊雄

平市新川町九一
入院隨意 木村醫院
病室完備 電話一六四番